

## 下総と上総をつなぐ水のみち両総用水

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 0 5 6 号
名称 (型式等)	両総用水
所在地	千葉県山武農業事務所両総用水管理課
	千葉県東金市田間 2-14-2
設立(竣工)年	昭和 48 (1973) 年

### 選定理由

九十九里平野（上総）と利根川下流（下総）の両総に位置する両総用水は、利根川から一宮川まで約 78km にわたる幹線と、幹線から枝分かれする支線用水路 15 路線約 155km、排水路 7 路線約 32km の農業用水路で、九十九里平野を潤すとともに利根川沿岸を水害から守る水の道です。

両総地域は、千葉県北東部に位置し、利根川沿岸と栗山川沿岸低平地及び九十九里平野の香取市外 13 市町村にまたがります。九十九里平野一帯は、分水嶺が平野のすぐ背後の丘陵地帯にあり、集水域が狭く大きな河川がありませんでした。そのため、ほとんど雨水に頼る天水田で水源に乏しい地域でした。また、旧佐原地域周辺の利根川沿岸の大須賀川、小野川流域は、極端な排水不良地帯であり、度重なる湛水害にさらされていました。このような中、昭和 8(1933)年、9(1934)年、15(1940)年に大干ばつが発生したことを契機に、用水不足の解消と排水改良を同時に行う「両総用水事業」が樹立され、昭和 18 (1943) 年、国会の承認を得て国の事業として農地開発営団に委任され、工事が着手されました。

第二次世界大戦などによる一時中断もありましたが、60 億円を超える費用をかけ、利根川から栗山川を經由し一宮川まで届く農業用水路が、昭和 40 (1965) 年に竣工しました。また、昭和 28 (1953) 年に、国営幹線に引き続く支援水路は県営事業として着工され、40 億円あまりの費用をかけ、昭和 48 (1973) 年に完成しました。

両総用水路により、利根川の水が九十九里平野 19,885ha を潤すとともに、利根川沿岸の低地帯が水害から守られることとなりました。これにより、米生産の安定が図られるとともに、昭和 40 年代から野菜生産が大きく伸びるなど、千葉県の農業生産や地域の営農を支える重要な農業用水となっています。



写真 1 : 公平水路橋 (外観)

協力：千葉県山武農業事務所両総用水管理課

参考資料：千葉県教育委員会ホームページ（両総用水）

関東農政局両総農業水利事業所ホームページ（完工記念誌・両総用水のあゆみ）